

特別委員会活動報告

まちづくり特別委員会

まちづくり特別委員会は中心市街地整備、東濃研究学園都市構想（核融合科学研究所、東濃地科学センター、土岐プラズマ・リサーチパーク）について、企業誘致、リニア新幹線、スマーティンターについてなど非常に守備範囲の広い委員会です。

初回の委員会では今年一年の運営方針について話し合いました。

また新土岐津線道路拡幅について、市当局ではまちづくり交付金を申請するとの方針でその交付金のあらましについてのレクチャーを受けました。補助率は四割と少ないものの多様な提案事業の展開が可能で自治体の裁量権の大きい交付金だということです。

ビジョンの明確化、どういったまちを目指すのか市民の声を聞く中、今後しっかりと煮詰めていく必要があるものと思われまます。いずれにしても計画だけでなかなか踏み出せなかった中心市街地整備が新土岐津線拡幅を起爆剤としていよいよ始まります。

土岐市の玄関である駅前がかつてのようににぎわいのある場となって欲しい

いものです。

今回は土岐プラズマ・リサーチパーク内の商業施設用地、リラクゼーション施設（温泉）用地などの誘致の状況をお聞きする予定です。

当面は広く浅く関係者からのレクチャーを受け調査研究をし、そうした中、テーマを絞り込んだ提言が出来ればとも思っています。

是非とも市民の皆さんの声をお聞かせ下さい。



▲まちづくり特別委員会

行財政改革特別委員会

昨年の行財政改革特別委員会は、一年間かけて平成十八年三月に策定された実施中の「土岐市集中改革プラン」に

ついてその内容と実施状況の点検及び協議を中心に進め、本年五月に「土岐市行財政改革に関する提言」を市長に提出しました。（提言内容は、本年二月十五日発行の議会だより第二一〇号に中間報告として掲載）その協議経過の中で総合病院の産科休止を中心とした医師不足の問題や経営悪化に関する問題に対する意見が多数出ました。

また、国の指示により平成二十年度中に「総合病院改革プラン」を策定しなければならぬ状況となりました。こうした経緯と情勢を踏まえ、六月十六日に開催した本年第一回の特別委員会で今後の協議内容を次のような方向で進めることを確認しました。

- (一)協議事項の中心を『総合病院改革プラン策定』に向けてとする。
- (二)特別委員会構成委員は、現在把握できている関係資料（七種類合計約二七〇ページ分）を精読し理解する。
- (三)総合病院に、現況及び経営内容に関する資料提出を依頼する。（六月二十日に十六種類の資料提出を依頼）
- (四)十二月に市議会に対して改革プラン（案）を示し、説明する予定になっているためこの日程にあわせて協議を進める。
- (五)協議事項の内容は、重要で専門的であるにもかかわらず、短期間の協議

となるため精力的に特別委員会を開催する。

- (六)第二回の特別委員会は七月二十二日に開催し、協議内容は、総合病院から提出予定の資料説明と、これに関係する質疑とする。

現在、特別委員会構成員九名は、関係資料を精読しながら意欲的に取り組む姿勢でスタートしました。協議内容は、市民にとって健康を守り十分な治療を受けることができる中核的医療機関に関わる非常に重要な問題でありますが、専門的内容も含まれますし、市議会を含め土岐市単独では解決あるいは改善の方向が見出せない部分もあります。現在のところ特別委員会としてどのような具体的方向性で意見集約できるか。意見集約を改革プランに反映できるように進められるか。わからないことが多い今日ですが、特別委員会として市議として責任を果たすことができるよう努力したいと考えています。

市民の皆様からのご意見も参考にしたいと考えています。ぜひ、どのような形式であれ積極的に建設的なご意見をお寄せいただくようお願い申し上げます。行財政改革特別委員会の報告とい